

横須賀の石炭火力建設設計画と アセス手続きの問題点

2019年7月

横須賀火力発電所建設を考える会
鈴木 陸郎

横須賀火力の旧施設の略歴

- * **1960年 石炭専焼火力発電所として発足**
- * 1969年 8号機の運転開始で世界一の火力発電所に
- * 1972年全機重油燃料に
- * 1985年～1996年1、2号機COM 焚き
- * 2004年 1号機廃止、5～8号機長期計画停止
- * 2006年 2号機廃止
- * 2008年7・8号再稼働(中越沖地震)
- * **2010年 全面長期計画停止**
- * 2011年3・4号再稼働(東日本大震災)、**2014年全面停止**
- * 2017年 全機廃止。解体工事5月9日～2022年4月末日

稼働状況

東日本大震災

原発トラブル隠し発覚

図 0-3-1 横須賀火力発電所の稼働状況

ユニット	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12		H13		H14		H15		H16		H17		H18		H19		H20		H21		H22		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
									上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下								
1号機	運転(COM)					運転(重油)																																						
2号機	運転(COM)					運転(重油)																																						
3号機	運転(重油・原油)																																											
4号機	運転(重油・原油)																																											
5号機	運転(重油・原油)																																											
6号機	運転(重油・原油)																																											
7号機	運転(重油・原油)																																											
8号機	運転(重油・原油)																																											
2号ガスタービン	運転(軽油・都市ガス)																																											

:長期計画停止

全面計画停止

石炭火力発電所建設計画の概要

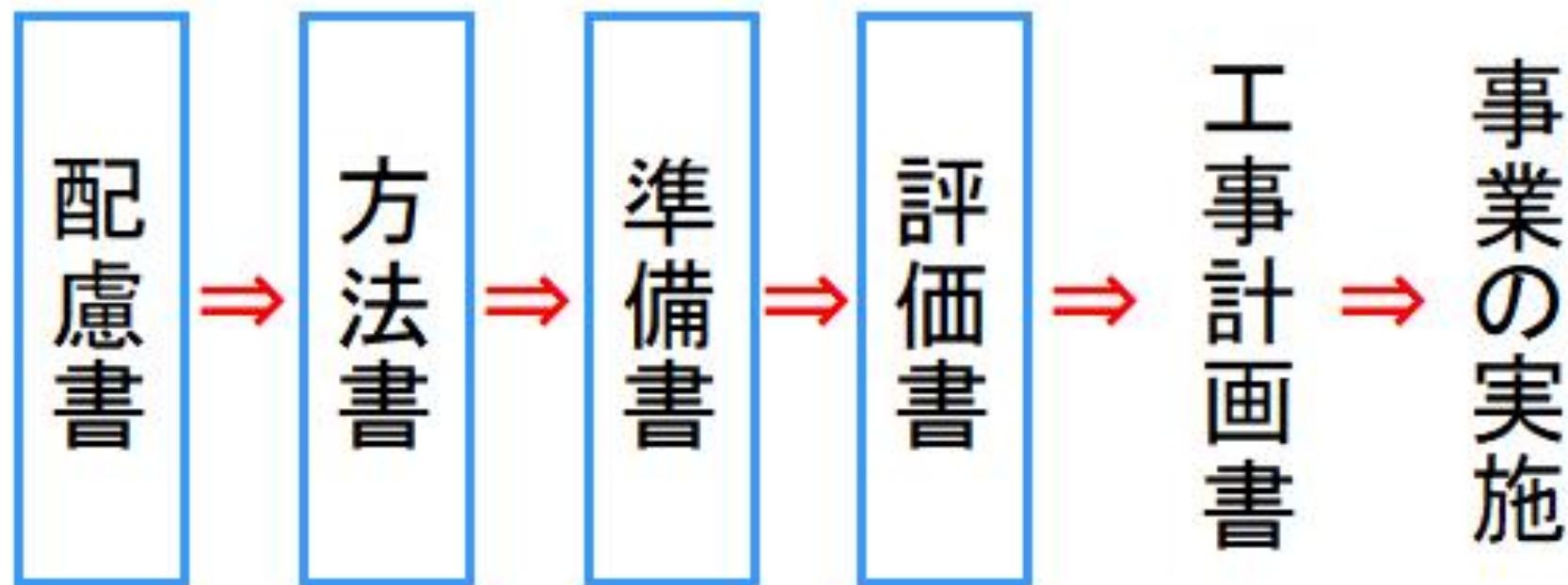
(仮称)横須賀火力発電所新1・2号機

- * 事業者 : (株) JERAパワー
- * 出資者 : (株)東京電力、(株)中部電力
- * 住所 : 神奈川県横須賀市久里浜9-2-1
- * 設備容量 : 130万kw (65万kw×2基)
- * 燃料 : 石炭(360万トン/年、CO₂排出量 726万トン/年)
- * 基礎・建屋建設 : 2019年着工予定
- * 機器据付 : 2020年中頃
- * 運転開始予定 : 1号2023年、2号2024年

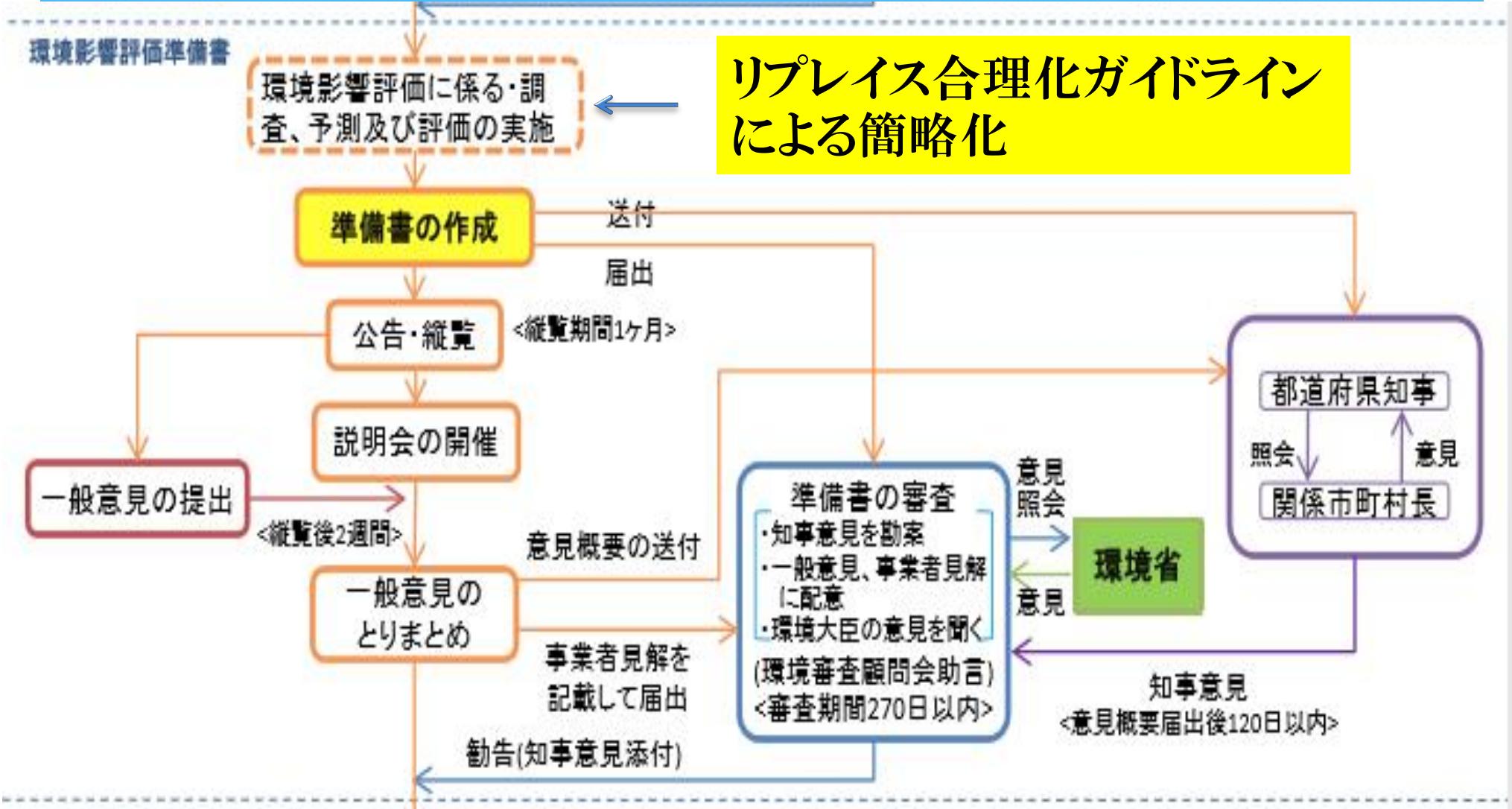
事業者JERAは「リプレイス合理化ガイドライン」が適用できると主張しアセスを簡略化して、建設を強行しようとしている

- * ガイドラインは、最新技術の導入により温室効果ガスや大気汚染物質等の環境負荷が低減できるとしてアセスを簡略化。平成24年3月に策定。
- * 電力需給のひっ迫を理由にアセスなしで解体工事ができるよう改訂（平成25年）。

アセス手続きフロー



アセス準備書段階の詳細



「ガイドライン」の適用の2つの要件

- * (A) 発電所からの温室効果ガス排出量、大気汚染物質排出量、水質汚濁物質排出量及び温排水排出熱量の低減が図られるもの
- * (B) 対象事業実施区域が既存の発電所の敷地内に限定される等により、土地改变等による環境影響が限定的となり得るもの

合理化ガイドライン(合理化GL)② (方法書p.6-11~20)

項目	現 状	将 来	適合状況
大気汚染物質 排出量	硫黄酸化物 : 494.2 m ³ _N /h 窒素酸化物 : 482.7 m ³ _N /h ばいじん : 147 kg/h	硫黄酸化物 : 約58 m ³ _N /h 窒素酸化物 : 約66 m ³ _N /h ばいじん : 約22 kg/h	適合 (低減)
水質汚濁物質 排出量	全窒素 : 239.06 kg/日 全 燐 : 32 kg/日 化学的酸素要求量 : 44.66 kg/日	全窒素 : 約24 kg/日 全 燐 : 約2.4 kg/日 化学的酸素要求量 : 約12 kg/日	適合 (低減)
温排水 排出熱量	約640 °C・m ³ /s	約399 °C・m ³ /s	適合 (低減)
温室効果ガス 排出量	約1,110万t-CO ₂	約740万t-CO ₂	適合 (低減)
土地改変等 による 環境影響	—	既設設備の跡地利用、 港湾施設・取放水設備等 の流用	適合 (限定的)

配慮書の審査会(H28年5月27日)

全機停止中なので、新設によって環境負荷が純増となる。
ガイドラインの適用が県の環境審査会でも問題になった

- * **委員**
 - * (現状が) 常に稼働可能な状態を保って維持しているという説明がありましたので、理解しました。そういう判断をしているという説明をしてほしい。

- * **事業者**
 - * 今も稼働できる状態という説明が必要と言うことは、方法書以降の記載で検討させていただきたいと考えています。

方法書の審査会(H28年11月14日)

- * 委員
- * 現在停止している施設であるということを踏まえた記述というのが見つかりません。どこかに記載されているのでしょうか。

- * 事業者
- * スタンバイ状態にあるという直接の記載はしていないので、準備書の方で対応させていただきたいと考えております。

結局、方法書ではスタンバイ状態という表現は文書にできなかつた

- * 金号機が稼働可能であることは、方法書では文書にできなかつた
- * 方法書に対する県知事意見が大変厳しいものになった背景に、事業者の約束不履行があつたと思われる

準備書ではさらに後退

- * 「現状、将来」としていた記載を「既設稼働時(現状)、新設稼働時(将来)」とより分かり易い表現に見直しました。

項目	既設稼働時 (現状)	新設稼働時 (将来)
CO ₂ 排出量	約1, 066万t／年	約726万t／年



既設稼働時と言なながら、全機が稼働している時を現状としている。全機が稼働していたのは19年前の2000年である。

そして、評価書では 事実と異なる記述をしている

現在、全号機を廃止して撤去工事を行っているが、環境影響評価手続きを開始した時点では、長期計画停止中であり、必要に応じて再稼働が可能であること、並びに以下の事由により、本計画では「合理化GL」を適用した。

- 熱効率の高い発電設備に更新するのがリプレイスの本質であること
- 東日本大震災以降に大規模なメンテナンスを行い再稼働した実績があること

ガイドラインの影響

- * アセス終了前から解体工事に着手し、解体と建設が同時進行となる／準備書作成のための調査が大幅に省略。スピードアップされ、環境への配慮が不十分である。
- * 経産省の環境顧問会（火力部会）では、ガイドライン対象事業であるということで、県知事意見や住民意見は殆ど無視されている状況がある。

2017年4月

5月から解体工事



2019年6月26日



横須賀の大気汚染の状況

- * 二酸化硫黄(SO₂)
- * 二酸化窒素(NO₂)
- * 光化学オキシダント
- * 注意報が発令されるとNO₂などの発生源に抑制措置依頼が出される(計画地久里浜地域で年2~3回発令されている)
- * PM2.5

現状は環境基準をクリアしていない

観測地点 久里浜行政センター

	光化学オキシダント		PM2. 5	
	1時間値の最高値	基準の適否	日平均値の98%値	基準の適否
2012年	0. 130	×	33. 7	—
2013年	0. 161	×	39. 4	×
2014年	0. 152	×	41. 0	×
2015年	0. 097	×	30. 5	○
2016年	0. 117	×	25. 5	○
2017年	0. 128	×	25. 5	○
環境基準	1時間値 0. 06PPM		1日平均値 35. 0 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	

訴訟の概要

パリ協定のもと脱石炭が求められており、大気汚染物質も大量に排出する石炭火力の新設は許されない。

- ガイドラインを適用したアセス手続きは間違っている。
- 簡略化したアセスでは、環境への配慮が不十分である。

経産大臣が行った評価書の変更を要しない旨の「確定通知」は撤回すべきである。